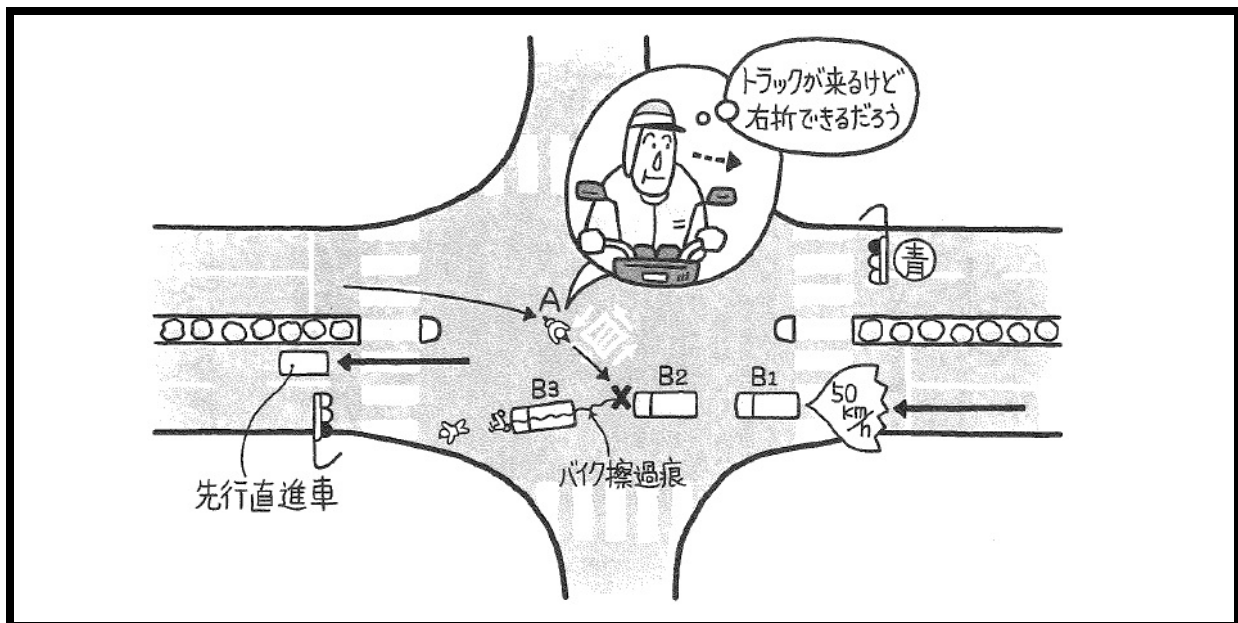


■事故の概況



事故類型：右折直進

発生日時：晩秋の朝

当事者A：原付自転車 70歳代 男性

当事者B：普通貨物車 60歳代 男性

■ 事故の概要

原付自転車を運転していたAは、次の十字路交差点を右折をするつもりで、中央分離帯寄りの第二車線に車線変更し、交差点で一旦停止しました。対面する信号は青だったが、対向車線に直進する車両を認めたので、その車両が通過するのを待ち、ゆっくり右折しようとした時、通過した車両の左後方第一車線をB車が直進してくるのが見えました。Aは、B車との距離は十分離れているので先に交差点を右折できると判断し、右折をはじめたところ、危険と思う間もなくB車と衝突しました。

一方Bは、時速約50kmで走行していました。交差点を走行する際B車の右隣を走行していた車両が交差点を通過した直後に、A車を発見しましたが、Aとの距離は既に約10mと接近しており、急ブレーキをかけましたが間に合わず、衝突しました。

■ 事故から学ぶ

交差点を右折する際、Aが「自分のほうが直進してくるBより先に交差点を右折できる」と誤った判断を下したことが原因です。道路交通環境に合わせた適切な安全確認や運転操作をしていたら、この事故は起きなかったと考えられます。

Aは約2年前にも全く同じような交通事故を起こしていました。運転に必要な「認知・判断・操作」が加齢によって低下していたのかもしれません。

高齢運転者が日常でできる安全運転行動は、例えば、一時停止の標識のある場所では必ず停止する、左右をよく確認する、スピードは控えめにする、運転時は運転に集中する。しかしこれらのポイントは運転者であればすべての人が注意することなのではないでしょうか。

そして、高齢者に限らず、歩行者、自転車、二輪車、四輪車、その他の交通（他人）を思いやることが一番の交通安全といえるかもしれません。